

《婦人薬 No2 問題》

問1 婦人薬とその有効成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 女性ホルモン成分を含む婦人薬は、長期連用により血栓症を生じるおそれがあり、また、乳癌や脳卒中などの発生確率が高まる可能性もある。
- b サフランは、女性の滞っている月経を促す作用を期待して配合されている場合がある。
- c 桂枝茯苓丸は、比較的体力があり、ときにのぼせて足冷えなどを訴えるものの月経不順、月経痛、更年期障害などに適すとされる。
- d 当帰芍薬散は、体力虚弱で、冷え症で貧血の傾向があり疲労しやすく、ときに下腹部痛や肩こり、耳鳴りなどを訴えるものの月経不順、月経痛、更年期障害などに適すとされる。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	誤	誤	正	正
3	誤	誤	誤	正
4	正	正	誤	誤
5	正	誤	正	誤

問2 婦人薬の適用対象となる体質・症状と婦人薬及びその配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 血の道症とは、臓器・組織の形態的異常がなく、抑鬱や寝つきが悪くなる、神経質、集中力の低下等の精神神経症状が現れる病態であり、更年期（閉経周辺期）に限って現れる。
- b 婦人薬は、月経及び月経周期に伴って起こる症状を中心として、女性に現れる特有な諸症状（血行不順、自律神経系の働きの乱れ、生理機能障害等の全身的な不快症状）の緩和と、保健を主たる目的とする医薬品である。
- c 妊娠中の女性ホルモンの補充を目的として、女性ホルモン成分の使用が推奨されている。
- d 女性ホルモン成分の長期連用により血栓症を生じるおそれがあり、また、乳癌や脳卒中などの発生確率が高まる可能性もあるため、継続して使用する場合には、医療機関を受診するよう促すべきである。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	正	正	誤	正

問3 婦人薬及びその適用対象となる体質・症状に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 月経痛について、大量の出血を伴う場合には、子宮内膜症などの病気の可能性がある。
- 2 内服で用いられる婦人薬は、比較的速やかに作用が出現し、短期間の使用で効果が得られるとされる。
- 3 月経不順については、過度のストレスや、不適切なダイエット等による栄養摂取の偏りによって起こることがある。
- 4 更年期障害の不定愁訴とされるのぼせやほてり等の症状については、心臓や甲状腺の病気でも起こることがあり、そのような原因が見いだされた場合には、その治療が優先される必要がある。

問4 第1欄の記述は、婦人薬として用いられる漢方処方製剤に関するものである。該当する漢方処方製剤は第2欄のどれか。

第1欄

比較的体力があり、ときに下腹部痛、肩こり、頭重、めまい、のぼせて足冷えなどを訴えるものの、月経不順、月経異常、月経痛、更年期障害、血の道症、肩こり、めまい、頭重、打ち身（打撲症）、しもやけ、しみ、湿疹・皮膚炎、にきびに適すとされるが、体の虚弱な人（体力の衰えている人、体の弱い人）では不向きとされる。

第2欄

- 1 温経湯
- 2 加味逍遙散
- 3 桂枝茯苓丸
- 4 四物湯
- 5 柴胡桂枝乾姜湯

問5 婦人薬及び月経等に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 月経前症候群は、月経の約10～3日前に現れ、月経開始と共に消失する腹部膨満感、頭痛、乳房痛などの身体症状が現れるが、精神症状は現れない。
- b 閉経の前後には、更年期（閉経周辺期）と呼ばれる移行的な時期があり、体内の女性ホルモンの量が大きく変動することがある。
- c 月経周期は、種々のホルモンの複雑な相互作用によって調節されており、視床下部や下垂体で産生されるホルモンと、卵巣で産生される女性ホルモンが関与する。
- d 人工的に合成された女性ホルモンの一種であるエチニルエストラジオールは、腔粘膜に適用されるものがあるが、この場合、女性ホルモン成分は、循環血液中に移行することはない。

1 (a、b) 2 (b、c) 3 (c、d) 4 (a、d)

問6 婦人薬の適用対象となる体質・症状及び婦人薬の配合成分に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 更年期（閉経周辺期）においては、月経周期が不規則になるほか、不定愁訴として血の道症（臓器・組織の形態的異常がなく、抑鬱や寝つきが悪くなる、神経質、集中力の低下等の精神神経症状が現れる病態）の症状が起こることがある。
- b 女性ホルモン成分の長期連用により血栓症を生じるおそれがあり、また、乳癌や脳卒中などの発生確率が高まる可能性がある。
- c 女性ホルモン成分は、妊婦又は妊娠していると思われる女性に対して安心して使用できる。
- d 鎮静、鎮痛のほか、女性の滞っている月経を促す作用を期待して、カヤツリグサ科のハマスゲの根茎を基原とする生薬であるトウキが配合される場合がある。

1 (a、b) 2 (b、c) 3 (c、d) 4 (a、d)

問7 婦人薬及びその配合成分に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a コウブシは、鎮静、鎮痛のほか、女性の滞っている月経を促す作用を期待して配合されている場合がある。
- b 温経湯は、体力中等度以下で、手足がほてり、唇が乾くものの月経不順、月経困難、こしけ（おりもの）、更年期障害、不眠、神経症、湿疹・皮膚炎、足腰の冷え、しもやけ、手あれに 適とされ、構成生薬としてカンゾウを含む。
- c 五積散は、体力中等度以上で、のぼせて便秘しがちなものの月経不順、月経困難症、月経痛、月経時や産後の精神不安、腰痛、便秘、高血圧の随伴症状（頭痛、めまい、肩こり）、痔疾、打撲症に適すとされ、構成生薬としてダイオウを含む。
- d 桃核承気湯は、体力中等度又はやや虚弱で冷えがあるものの胃腸炎、腰痛、神経痛、関節痛、月経痛、頭痛、更年期障害、感冒に適すとされ、構成生薬としてマオウを含む。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (a、d) 4 (b、d) 5 (c、d)

問8 婦人薬及びその適用対象となる体質・症状に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 月経の約10～3日前に現れ、月経開始と共に消失する腹部膨満感、頭痛、乳房痛などの身体症状や感情の不安定、抑鬱などの精神症状を主体とするものを、月経前症候群という。
- b 妊娠中の女性ホルモン成分の摂取によって胎児の先天性異常の発生が報告されており、妊婦又は妊娠していると思われる女性では、エストロジオールを含有する医薬品の使用を避ける必要がある。
- c 桂枝茯苓丸は、体力中等度又はやや虚弱で冷えがあるものの胃腸炎、腰痛、神経痛、関節痛、月経痛、頭痛、更年期障害、感冒に適すとされ、構成生薬としてカンゾウを含む。
- d 当帰芍薬散は、体力中等度以上で、のぼせて便秘しがちなものの月経不順、月経困難症、月経痛、月経時や産後の精神不安、腰痛、便秘、高血圧の随伴症状（頭痛、めまい、肩こり）、痔疾、打撲症に適すとされ、構成生薬としてカンゾウを含む。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	正	正
5	誤	誤	誤	正

問9 婦人薬とその配合成分に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a エチニルエストラジオールは、人工的に合成された女性ホルモンの一種であり、妊娠中の女性ホルモンの補充のために用いられる。
- b 五積散は、体力中等度以上で、のぼせて便秘しがちなものの月経不順、月経困難症、月経痛、月経時や産後の精神不安、腰痛、便秘、高血圧の随伴症状（頭痛、めまい、肩こり）、痔疾、打撲症に適すとされる。
- c 胃腸症状に対する効果を期待して、ソウジュツが配合されている場合がある。
- d 鎮静作用を期待して、カノコソウが配合されている場合がある。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、c) 4 (b、d) 5 (c、d)

問10 婦人薬及びその配合成分に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a エストラジオールを含有する婦人薬は、一般用医薬品では内服薬のみが認められている。
- b エチニルエストラジオールは、長期連用することにより、血栓症を生じるおそれがある。
- c 桂枝茯苓丸は、体力虚弱なものの月経不順や更年期障害に伴う諸症状の緩和に用いられる漢方処方製剤であり、特に重篤な副作用は知られていない。
- d 桃核承気湯は、体力中等度以上で、のぼせて便秘しがちなものの月経不順、月経困難症、月経痛、月経時や産後の精神不安、腰痛、便秘、高血圧の随伴症状（頭痛、めまい、肩こり）、痔疾、打撲症に適すとされ、構成生薬としてカンゾウを含む。

1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (b、d) 5 (c、d)

問 11 次の記述にあてはまる漢方処方製剤として、最も適切なものはどれか。

体力中等度又はやや虚弱で冷えがあるものの胃腸炎、腰痛、神経痛、関節痛、月経痛、頭痛、更年期障害、感冒に適すとされるが、体の虚弱な人（体力の衰えている人、体の弱い人）、胃腸の弱い人、発汗傾向の著しい人では、不向きとされる。構成生薬としてマオウを含む。

- 1 加味逍遙散
- 2 柴胡桂枝乾姜湯
- 3 四物湯
- 4 五積散
- 5 当帰芍薬散

問 12 女性の体質及び婦人薬に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 女性の月経は、子宮の内壁を覆っている膜（子宮内膜）が剥がれ落ち、血液（経血）と共に排出される生理現象で、一生のうち妊娠可能な期間に、妊娠期間中などを除き、ほぼ毎月、周期的に起こる。
- b 人工的に合成された女性ホルモンの一種であるエチニルエストラジオールは、妊娠中の女性ホルモンの補充のために用いられる。
- c 女性ホルモン成分の長期連用により血栓症を生じるおそれがある。
- d 月経周期は、種々のホルモンの複雑な相互作用によって調節されており、視床下部や下垂体で産生されるホルモンと、卵巣で産生される女性ホルモンが関与する。

a b c d

- 1 正 誤 正 誤
- 2 正 正 誤 誤
- 3 誤 正 誤 正
- 4 誤 正 正 誤
- 5 正 誤 正 正



- 問 13 婦人薬及びその成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。
- a 婦人薬は、月経及び月経周期に伴って起こる症状を中心として、女性に現れる特有な諸症状の緩和と、保健を主たる目的とする医薬品である。
  - b 鎮痛・鎮痙作用を期待してシャクヤクが配合されている場合がある。
  - c 利尿作用を期待してオウレンが配合されている場合がある。
  - d 女性ホルモン成分の長期連用により乳癌や脳卒中などの発生確率が高まる可能性がある。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	誤	正
5	誤	正	正	誤

- 問 14 50 歳女性、婦人病の症状に良い漢方処方製剤はないかドラッグストアに相談に来られた。状態や症状を確認したところ、体力は中等度以下でのぼせ感があり、肩がこり、疲れやすく、精神不安やいらだちなどの精神神経症状、ときに便秘の傾向のあるものの冷え性、虚弱体質、月経不順、月経困難、更年期障害、不眠症があることがわかった。次の漢方処方製剤のうち、最も推奨すべきものはどれか。

- 1 桃核承気湯
- 2 加味逍遙散
- 3 温清飲
- 4 五積散

問 15 婦人薬として用いられる主な漢方処方製剤に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 当帰芍薬散は、体力中等度又はやや虚弱で冷えがあるものの胃腸炎、腰痛、神経痛、関節痛、月経痛、頭痛、更年期障害、感冒に適すとされる。
- b 四物湯は、体力虚弱で、冷え症で皮膚が乾燥、色つやの悪い体質で胃腸障害のないものの月経不順、月経異常、更年期障害、血の道症、冷え症、しもやけ、しみ、貧血、産後あるいは流産後の疲労回復に適すとされる。
- c 桂枝茯苓丸は、比較的体力があり、ときに下腹部痛、肩こり、頭重、めまい、のぼせて足冷え等を訴えるものの、月経不順、月経異常、月経痛、更年期障害、血の道症、肩こり、めまい、頭重、打ち身（打撲症）、しもやけ、しみ、湿疹・皮膚炎、にきびに適すとされる。
- d 加味逍遙散は、体力中等度以上で、のぼせて便秘しがちなものの月経不順、月経困難症、月経痛、月経時や産後の精神不安、腰痛、便秘、高血圧の随伴症状（頭痛、めまい、肩こり）、痔 じ 疾、打撲症に適すとされる。

	a	b	c	d
1	誤	誤	誤	正
2	正	誤	誤	誤
3	正	正	誤	誤
4	誤	正	正	正
5	誤	正	正	誤

問 16 次の記述は、婦人薬と月経等に関するものである。正しいものの組み合わせはどれか。

- a 月経以外の不規則な出血があった場合は、すみやかに医療機関を受診するよう勧める必要がある。
- b 膣に適用する薬剤は、全て局所に用いられるため、成分が吸収されて循環血液中に移行することはない。
- c 女性ホルモン成分は、長期連用で血栓症を生じる可能性がある。
- d おりものは、女性生殖器の異常を示しているものなので、程度や色などに関係なく、少量でもみられた場合は医療機関の受診を勧める必要がある。

1 (a、c) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (b、d)

問 17 婦人薬の相互作用、受診勧奨に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 1ヶ月位使用して症状の改善がみられず、日常生活に支障を来すようであれば、医療機関を受診するなどの対応が必要である。
- b 内服で用いられる婦人薬では、通常、複数の生薬成分が配合されている場合が多く、他の婦人薬、生薬成分を含有する医薬品が併用された場合、効き目が強すぎたり、副作用が起りやすくなるおそれがある。
- c 更年期は様々な病気が起りやすい年齢でもあり、そのような原因が見いだされた場合には、その治療が優先される必要がある。
- d 一般の生活者においては、「痔の薬」と「更年期障害の薬」等は影響し合わないとの誤った認識がなされることも考えられるので、医薬品の販売等に従事する専門家において適宜注意を促していくことが重要である。

	a	b	c	d
1	誤	正	誤	正
2	正	誤	誤	正
3	正	正	正	誤
4	正	正	正	正
5	誤	誤	正	誤

問 18 第1欄の記述は、婦人薬として使用される漢方処方製剤に関するものである。第1欄の記述に該当する漢方処方製剤として正しいものは第2欄のどれか。

第1欄

体力中等度で皮膚はかさかさして色つやが悪く、のぼせるものの月経不順、月経困難、血の道症、更年期障害、神経症、湿疹・皮膚炎に適すとされるが、胃腸が弱く下痢しやすい人では胃部不快感、下痢等の副作用が現れやすい等、不向きとされる。

第2欄

- 1 桂枝茯苓丸    2 柴胡桂枝乾姜湯    3 温清飲    4 四物湯    5 当帰芍薬散

問 19 婦人薬の代表的な配合成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 鎮痛・鎮痙の作用を期待して、シャクヤク、ボタンピが配合されている場合がある。
- b エチニルエストラジオールは、長期連用することにより、血栓症を生じるおそれがある。
- c 鎮静、鎮痛のほか、女性の滞っている月経を促す作用を期待して、サフランが配合されている場合がある。
- d センキュウは、血行を改善し、血色不良や冷えの症状を緩和するほか、強壯、鎮静、鎮痛等の作用を期待して用いられる。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	誤	正	誤	誤
3	正	正	正	正
4	誤	誤	誤	正
5	誤	正	正	誤

問 20 婦人薬として使用される漢方処方製剤に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 桃核承気湯は、体力虚弱で、冷え症で皮膚が乾燥、色つやの悪い体質で胃腸障害のないものの月経不順、月経異常、更年期障害、血の道症、冷え症、しもやけ、しみ、貧血、産後あるいは流産後の疲労回復に適すとされる。
- b 桂枝茯苓丸は、体力中等度以下でのぼせ感があり、肩がこり、疲れやすく、精神不安やいらだちなどの精神神経症状、ときに便秘の傾向のあるものの冷え症、虚弱体質、月経不順、月経困難、更年期障害、血の道症、不眠症に適すとされる。
- c 五積散は、体力中等度又はやや虚弱で冷えがあるものの胃腸炎、腰痛、神経痛、関節痛、月経痛、頭痛、更年期障害、感冒に適すとされる。
- d 柴胡桂枝乾姜湯は、体力中等度以下で、冷え症、貧血気味、神経過敏で、動悸、息切れ、ときに寝汗、頭部の発汗、口の渇きがあるものの更年期障害、血の道症、不眠症、神経症、動悸、息切れ、かぜの後期の症状、気管支炎に適すとされる。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	誤	誤	正	正
3	正	正	誤	正
4	正	誤	誤	正
5	誤	正	正	誤